

平成29年2月10日

第145号

NJ素流協 News

平成29年2月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

平成28年度林業経営講座(中期)を開催

NJ素流協は1月11～12日の2日間にわたり、平成28年度林業経営講座(中期)を開催し、組合員及びその後継者、従業員等26名が出席した。受講者は別表のとおり。

▽1日目(1月11日)

1日目は「広葉樹の伐倒・造材」をテーマに、盛岡市藪川の岩洞活性化センター及び松村林業作業林において、(株)小林三之助商店岩手工場(宮古市茂市)の田鎖勝工場長による室内講義及び現地研修が行われた。



田鎖工場長による講義

同社は岐阜県に本社を置き、鉄道用枕木の生産で知られている。昨年のリオオリンピックで使用された卓球台の足部分のブナ材は、同社が宮古市で伐採したものである。講義の概要は次のとおり。

〈室内講義〉

①広葉樹と針葉樹

・製紙工程が広葉樹、針葉樹で異なるため、パルプ材はこれらを混ぜて納材することができない。広葉樹、針葉樹の別を覚えること。

②広葉樹の山の見方

・広葉樹の「良い山」とは、木が太くて用材率が高く、高価な木があり、搬出が容易、とバランスの良い山である。山を買う場合は全体を見て判断する必要がある。

・樹種ごとの丸太の単価を頭に入れておくこと。

・特殊材は長材か否かで単価が大きく変わるので注意して見る。

・搬出路の付け方が重要である。

・最終的には地主さんとの交渉に

なるので、営業力、社交性も必要。
・実際の売上や経費を当初見積もった内容と照らし合わせて検証しないと、その山の評価は分からない。100のものが110、120になるのが理想である。

③広葉樹の伐倒

・広葉樹は二股になったり、傾いたり、枝が偏ったり、様々な形状がある。伐倒前によく木を観察し、重量のバランスを見ることが。

・針葉樹に比べ広葉樹は重く、慎重に伐倒する必要がある。

・重量で伐倒中に根が起きることがあり非常に危険なので、慎重に作業すること。

・伐倒の際は自分の退避位置を確認するのが基本である。

④搬出方法

・広葉樹は重く、乾燥してもオノオレカンバ、カシ、カエデ、ミズメ、ナラ等は重い。機械で持ち上げる際、近づいて操作しないと重量判断は慎重に行うこと。

・搬出には架線集材、スイングヤー

ダ、ウインチ等色々な手段があるが、重量物で形状も多様であることから、うまくいかない場合は枝を落とす等の対処が必要である。

⑤ 造材の考え方

・造材の基本は直材を採ることである。

・サルカ(追い口と受け口の差によって出来た断面のくい違い)をそのままするのはNGである。

・丸太とは、自分達が誇りを持って生産する「商品」である。

・買う側の立場に立ち、きれいな丸太を生産すること。それにより単価も変わってくる。

・元玉には腐れ、目まわり(年輪に沿った割れ)等の欠点が最も現れやすいので注意すること。

⑥ 運材

・トラックを離れる際はエンジンを停止し、サイドブレーキをかけたギアをバック等に入れること。

・凍結時には、積載したブナ、ケヤキ、アカマツ等は滑りやすいので、特に注意すること。

⑦ 原木の加工

・自分の生産した丸太が何に加工されるか頭に入れておくこと。

〈現地研修〉

室内講義の後、室内会場付近で伐採作業中の松村林業(滝沢市、松村優代表)に研修場所を提供いただき、実技講習を行った。講師

は田鎖氏のほか、小林三之助商店岩手工場の佐藤卓美氏、藤沢岩太郎氏が務め、松村代表にも作業のご指導をいただいた。

実技ではナラの伐倒と造材を実際に行い、伐倒方向をよく見極めること、造材の際は材の曲がりや元、末の両側から見て確認すること、枝やこぶ、サルカをきれいに処理すること等の注意点を確認した。

▽2日目(1月12日)

2日目は矢巾町の岩手県林業技術センターにおいて、「パソコンによる測量図面の作成」をテーマに、同センター菊池和博主査専門研究員による室

平成28年度 林業経営講座(中期)受講者

(組合員番号順・敬称略)

No.	所属	氏名	広葉樹	PC研修
1	(株)昭林	小林 拓夫	○	—
2		中村 仁司	○	○
3		畠山 佑樹	○	○
4	(有)丸大県北農林	間澤 和広	—	○
5	中村林業	中村 拓宙	○	○
6	(株)イワリン	永島 良治	○	○
7	杉澤 幸四郎	杉澤 博幸	○	—
8	(株)柴田産業	柴田 君也	—	○
9	ふるさと木材	畠山 辰也	○	○
10	(株)小野寺林業	眞崎 貴晃	—	○
11	(株)小林三之助商店 岩手工場	金澤 豪	○	—
12		盛合 佑輔	○	—
13		平尾 浩司	○	—
14		石崎 琢真	○	—
15	小野寺 隆治	小野寺 俊祐	○	○
16	(有)川又林業	川又 正人	○	—
17		角館 秀和	○	○
18		川又 星児	○	○
19	(有)道又林業	野 邑 真路	○	○
20	(株)山下組	鎌田 和明	○	○
21		藤平 康寛	○	○
22	(株)小友木材店	奥友 賢治	○	○
23	上十三地区森林組合	向中野 政和	○	○
24	大上木材工業(株)	大上 達司	○	○
25		狛守 義秋	○	—
26		伊藤 大輔	○	—



マイナス9度の寒さの中お疲れ様でした!

内講義が行われた。

講義ではエクセルを使ったフリー

ソフト「トンプス10GIS」により、コンパス測量の野帳データによる測量図の作成方法を学んだ。データはGIS、GPSに対応した形式に変換して出力することが可能で、それらに表示することが出来る。

研修後は引き続き「皆伐施業ガイドライン第2回検討会」を開催し、当組合独自のガイドラインの策定に向けて協議した。

厳しい寒さの中、またお忙しい中講師をお引き受けいただいた皆様に、厚く感謝申し上げます。

トピックス

台風10号被害支援まきプロジェクト終了

当組合では、台風10号により薪を失った岩泉町安家地区の家庭に対し薪の無償提供を行うため、昨年10月29日から、組合員のご協力をいただいで薪用の原木や製材背板を届けてきたところです。安家地区での原木受け入れが豊富になったこと等から、本プロジェクトは1月7日に岩手町役場から提供された道路法面の支障木伐採材を届けて、ひとまず終了することとなりました。

これまでに届けた原木・製材背板の量は、大型トラックで6台相当分となり、ボランティアの皆さんにより薪に加工され、希望する家庭に配られており、被災者の方々から大変感謝されています。

原木・製材背板の無償提供やその運送にご協力いただいた組合員は別表のとおりです。ご協力いた

だいた皆様に対し、改めて深く感謝申し上げます。

また、盛岡市神子田町の中屋五郎商店の佐藤勇三様には（御息が組合員の勇一氏）、支援まきプロジェクトに呼応くださり、個人で新品のチェンソー5台とチェンソー3缶などを岩泉町役場安家支所に贈呈されました。チェンソーは、全国各地から駆けつけたボランティアの方々が薪づくりにフル回転で使用しているところです。心より敬意と感謝を申し上げます。

ご協力いただいた組合員

薪用の原木・背板の無償提供			
	佐藤	勇一	様
(株)鹿	児島	屋及	川喜久平様
(株)西	南育	林高	橋務様
(有)泉	林業	泉悦	男様
原木・背板の運送			
(株)古	里木	材物	流畠山正様
(株)大	川運	送佐	々木豊秀様
(有)三	栄興	業松	田光治様

林業講演会を開催

当組合は、林業講演会「薪ビジネスの今後の展開」を2月1日、盛岡市で開催し、(株)ディーエルディーバイオエネルギー事業部長木平英一氏、(株)東海木材相互市場代表取締役社長鈴木和雄氏、当組合理事長鈴木信哉による講演が行われ、約100名が聴講した。講演の詳細は次号で紹介いたします。

全素協理事会に出席

全国素材生産業協同組合連合会（全素協）の理事会が1月12日、東京都において開催され、会員による意見発表・意見交換が行われた。当組合から鈴木理事長、高橋常務理事が出席した。

森林林業中央研修会開催される

平成28年度森林林業中央研修会（主催・全国国有林造林生産業連絡協議会、全素協）が1月13日、東京都において開催され、当組合

役職員、組合員計10名が出席した。研修では、林野庁幹部3名及び

中日本航空株式会社宮坂聡専任技師長、東京大学大学院酒井秀夫教授による講演が行われた。

県産材の販路開拓支援セミナー開催される

県産材の販路開拓支援セミナー（主催・岩手県）が1月16日、盛岡市において開催され、NPO法人活木活木（いきいき）森ネットワーク理事長の遠藤日雄氏が「国産材の販路開拓に向けた取組について」と題し講演を行った。

講演の中で遠藤氏は新たな大量原木供給組織の事例を挙げ、NJ素流協の事業展開について「素材生産業再編型」として紹介した。

中央需給情報連絡協議会に出席

国産材の安定供給体制の構築に向けた中央需給情報連絡協議会が1月24日、東京都において開催され、東北地区広域原木流通協議会

事務局として当組合外館経営企画部長が出席し、東北地区の取組状況等について報告した。

花粉症対策苗への植替作業終了

当組合は林野庁の助成を受け、今年度から「花粉症対策苗植替促進事業」に取り組んでいる。

本事業は、スギ林を伐採して花粉症対策苗木に植え替える場合、森林所有者に1ha当たり35万円、伐採事業者等に同12万円が交付されるものである。

丸太運搬用トラックの安全な走行を！

1月23日午前、久慈市内の三陸鉄道北リアス線高架橋に丸太運搬中のトラックの一部が接触し、同日夜まで一部区間で列車の運行がストップする事故が発生しました。

丸太の運搬に当たっては法令に定められた積荷高さを遵守し、グラブを格納したうえで安全に走行するよう、十分に注意して下さい。

今年度は計6haの伐採地において事業を実施し、一部繰越分を除く約5haにおいて花粉症対策苗木への植替作業が完了した。実施箇所は次のとおり。

H28花粉症対策苗植替促進事業 実施箇所

組合員名	林分所在地	面積ha
1 (有)丸大県北農林	岩手県九戸郡洋野町	1.00
2 (株)小野寺林業	岩手県一関市藤沢町	0.82
3 (有)松田林業	岩手県気仙郡住田町	1.20
4 (有)山一木材	岩手県一関市室根町	0.81
5 (株)高橋林業	青森県十和田市	0.91
6 (株)林業小山組	秋田県山本郡藤里町	1.26
計		6.00

※年度内完成分 5.09ha

植替には1ha当たり2千本、計1万2千本の少花粉スギ苗木を使用し、秋田県の苗木業者から6千本の実生苗を、岩手県の苗木業者から6千本の挿し木苗を調達した。伐採作業は6名の組合員が行い、植栽は森林組合等との連携により行われた。なお、11月には住田町の事業地において記念植樹祭を実施している。

同事業は来年度も実施される見込みなので、ぜひご活用下さい。

合法木材等供給事業者を認定

NJ素流協が10月～1月に認定した合法木材等供給事業者は次のとおり。

合法木材等供給事業者 認定事業者

認定番号	認定事業者	住所	認定日
素流協-112	スズシン物流システム(株)	奥州市水沢区	H28.10.4
素流協-404	(有)早稲谷菅原苗木店	宮城県気仙沼市	
素流協-113	(株)大川運送	下閉伊郡岩泉町	H28.10.12
素流協-114	(株)広岡組	奥州市胆沢区	H29.1.18

林野庁関係 H29年度予算の概要

平成29年度の当初予算案は12月22日閣議決定され、1月20日召集の通常国会で審議されている(台風被害対策を含む28年度三次補正予算は1月31日成立)。

林野庁関係当初予算には、28年度当初予算額2933億円から微増の2956億円(対前年度比100.8%)が計上されている。

重点事項の筆頭に上がる次世代林業基盤づくり交付金には70億円が計上され、苗木生産、間伐等の川上対策から木材加工流通施設・木造公共建築物整備等の川下対策まで、総合的に支援が行われる。また「緑の雇用」事業等の人材育成対策には60億円が、花粉発生源対策には5億円が計上されている。

国有林素材山元委託販売 入札結果

市日：平成29年1月18日(水)

市場：岩手南部森林管理署(第5回)

(参加者人数 5名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m ³)	応札枚数	土場
605-1	アカマツ	2.00	16-32	込	81	8.240	3	津谷川
605-2	スギ	2.00	16-34	込	1,201	88.465	4	津谷川
605-3	スギ	2.00	16-32	込	337	24.869	5	津谷川
605-4	スギ	2.00	16-40	込	697	51.869	5	津谷川
605-5	スギNA	2.00		低質	層積	38.783	4	津谷川
605-6	スギNA	2.00		低質	層積	82.102	4	津谷川
合計					2,316	294.328		

山火事を未然に防ごう
 3月1日～5月31日は
山火事防止運動月間です

岩手県山火事防止対策推進協議会が1月27日、盛岡市で開催され、関係者が本年の山火事防止対策実施計画等について協議した。当組合から竹田参与が出席した。

平成28年の岩手県内の林野火災被害面積(速報値)は10・11haで前年の28・52haより減少したが、発生件数は59件と前年より8件増

管内供給先情報

1. ファーストプライウッド(株)が造作用LVLのJAS取得。
2. セイホク(株)、西北プライウッド(株)にロータリーレース、プレス、ドライヤーの増設進む。
3. (株)津軽バイオマスエナジーが新型チップ導入、末木枝条・短コロの利用を加速。
4. 80年生以上のスギ目詰り材出材見込みは当組合へご連絡を。

加した。被害面積の約9割が3～5月に集中し、原因別では野焼きが最も多く39%、次いでたき火が24%で、これらで全体の6割を占めている。

協議会では例年通り3月1日～5月31日を山火事防止運動月間と定め、関係機関が連携して山火事防止対策に重点的に取組むこととされたので、組合員の皆様におかれましても一層の取組みをお願いいたします。

全国山火事予防運動統一標語

「火の用心

森から聞こえる ありがとう」

お知らせ

理事会、監査会及び第14回通常総会の日程は次のとおりです。

【理事会】

- ・28年度第6回…3月16日(木)
- ・29年度第1回…5月8日(月)

【監査会】

4月28日(金)

【通常総会】5月23日(火)

会場：ホテルメトロポリタン盛岡
 ニューウィング

視察報告

スウェーデン林業・バイオマス施設視察研修 (その3)

ノースジャパン素材流通協同組合 営業企画課長 野田 秀一

(前号からの続き)

▽スベアスコグ社伐採現場

9月27日、キルナの町から南東に140km離れた伐採現場へ移動。出迎えたのはトナカイの群れだった(写真1)。スウェーデンにはトナカイ、ヘラジカ、熊、オオヤマ

ネコ、クズリ、狼等の野生生物が生息している。

伐採現場では地区マネージャーのエリック・レベン氏に説明いただいた。



写真1 トナカイがお出迎え

スベアスコグ社からはプロダクシヨンマネージャーのラングナー氏と森林マネージャーのパトリック氏、伐採業者からはメニック氏、レイク氏、シモン氏に参加いただいた。

スウェーデン国営スベアスコグ社は国内最大の森林所有者で、全国森林の14%を所有し、木材、パルプ、バイオ燃料等を生産している。年間伐採量は500万m³で、所有地の20%は自然保護のために活用され、エコパークが37箇所ある。50の事業所に従業員688人、契約社員1200人を擁している。スウェーデンの森林の個人所有率は50%、企業所有率は25%となっている。

国内130の製材所のうち、同社では70社に供給している。他に

パルプ材を20社に、バイオ燃料を60社に供給している。木材生産量の70%は輸出される。国内一戸建て住居の90%は木製である。

同社はスウェーデン最大の水所有者でもあり、240の風力発電所も運営している。

通常、間伐は40年、主伐は80年で行われるが、標高200m程のこの伐採現場は、6月の大嵐で木が倒れたために55〜60年生で早めに主伐が行われることになった。

ヨーロッパアカマツ（スコッチパイン、レッドウッド）、ドイトウヒ（ホワイトウッド）が大半でカバも少し見られる。伐採は契約会社が行い、25%は自社の機械を使用する。運送は請負会社に任せている。この現場は広さ19haで、伐採量はha当たり30〜40m³、蓄積はha当たり110m³。製材用材が半分、残りの半分がパルプ材である。

伐採会社社長「自慢の、休憩室付き装備万端の作業車は80万SEKの設備で、必要なものは何でも揃った「動く整備工場」のようだった(写真2)。ハーベスタのソーチェー

ンの自動目立て機やエアークンプレッサーなども搭載している。機械のメンテナンスにはエアは欠かせないので、作業は楽に行えると思う。



写真2 休憩室付き作業車

就業形態は6時間が伐採作業、2時間が整備や木材のマーキング等の別作業、1時間の休憩から成る。3人でシフトを組めば一日18時間の伐採が可能である。

ヨーロッパアカマツなどの樹高はそれほど高くなく、4m材、2m材、バイオマス材を造材していた。また、枝は日本のスギのよう

に太くなく4〜5cm程度で、ハーベスタは抵抗無く枝打ちをこなしていた。天然更新が基本だが、年々伐採により樹木が減少していることから植樹も行われている。

山の形状はなだからで林道は広く、風抜けも良い。伐採現場からすぐ運搬出来る条件はうらやましい限り！



写真3 ハーベスタKomatsu911と参加者

▽アビスコ国立公園

27日午後はスウェーデン北部のアビスコ国立公園まで約100kmを移動した。この広大な国立公園は北極圏内に位置し、オーロラを観測地としても有名である。ツン

ドラの森林限界の樹木は枝ぶりも細く、樹高は2m程で成長の遅さが見受けられた(写真4)。



写真4 森林限界付近の様子

▽おわりに

今回のスウェーデン・バイオマス視察研修に参加し、初めて海外の林業に触れることが出来た。この体験を何らかの形で今後の業務に役立たせたいと思う。

視察を企画していただいた鹿児島県素材生産業協同組合連合会、東京大学酒井教授ほか参加された皆様にはたいへんお世話になり、また当組合関係者の皆様や職場の皆様には理解と協力をいただき、誠に有難うございました。

ちよっと気になる木の話 7

昭和50年代を振り返ると…

皆伐全盛時代の素材生産業

今、皆伐が再び増加している。昭和50年代、丸太価格がピークを迎えた頃の素材生産業はどうだったのか？西日本中心の民有林経験が主であるが振り返ってみよう。今回は視点を変えた話であるが、何か参考になることもあるかもしれない。

1. 生産効率を上げるため、索張り専門業者が存在

次から次へと生産を持続するため、次の現場の索張りを専門業者に頼んでいた。専門業者は20代から30代の若い人がほとんどで、架線支障木伐採と索張りを専門として、索の回収作業も行い、ワイヤロープや集材機部品も効率的に回していた。このことにより、素材業者は、一年中集材作業のスキ間をつくることはなかった。今の路網集材だと、作業道作設を先行させる専門業者がいる形式となる。

2. 給料は固定給プラス収入の増加額の一定の率分を払う

素材生産業の社長は、山の現場毎に収

入額を定め、その金額を上回った分は、

作業者に追加払いを行っていた。逆に下回った場合のペナルティーはなかった。

このため、作業者にインセンティブがあったので、社長（親方）は、現場に四六時中付くことはなく、作業者は、毎週市売日毎に原木市場に値段を確かめに出掛けている。今で言うところのグラブでの採材オペレーターが、市売日に価格を確かめに、原木市場に自主出勤するような感じである。

3. 伐採現場の周囲の所有者に追加で伐採働きかけ

せつかく大がかりな索張りを行うため、立木を買った山の周りに存在する山林の所有者に、同時に伐つたら得だと事前に、又は途中で働きかけて設備投資を少なくして、スケールメリットを追求していた。当然、ついでになるので経費分を少なく提示して、山林所有者のメリットにしていた。これには、元々の山を現金で事前取引していたことが条件である。

今で言うと、作業道がせつかく次の山近くまでいくので、ついでにどうですかと働きかけるような感じである。

4. 儲かったら、終了後改めて、少しお

金をバックする

事前に現金で買っているのに、儲かっても売主に返す義務はないが、相手が大きな森林所有者の場合、次のこともあるので、終了後、利益の中から少しお金を届けに行くことが行われていた。いわゆる継続的な仕事を確保する方策であった。森林所有者とは、いわば随意契約なので直接声をかけてもらうのが一番である。今も、あるかもしれない。

5. 間伐時の間伐材をチェックして手帳に記録する

主伐時に山を買う時材質がわかれば、便利かつ有利である。そのため、間伐している山の間伐材をチェックして、手帳に記録して、代々引き継ぎ、次の世代に役立てるということである。手帳を見せてもらったが、近隣の市町村の山も記録されていた。今でも、あの辺の山はダメとかあの谷の右岸は良いとか言い伝えはあるが、マニュアルではあるが、もう少しシステムティックである。

6. 丸太を積んだトラックの行き先を変える

当時は、毎日、どこかで原木市が開催されており、途中で〇〇の市のスギ大径材が高いと情報が入ると、トラック運転手に無線で連絡して、行き先の変更をす

るといのが日常茶飯事であった。全ての場所が急激に値上がりすると、運転手に旅館でしばらく泊まるとの指示もあった。これは、今では、ほとんど起こらない物語である。

7. 森林組合が森林所有者に代わって素材業者を集めて立木公売を実施

素材生産業者に知り合いがない、信用できない、関係者が複数いる等の場合や、極めて小面積の場合等、森林組合による立木販売が行われていた。山主と業者双方が会場において、一喜一憂したものである。しかし確実に儲かる山は組合で購入し直接伐採販売、次は、請負費をもらって伐採販売、それ以外の山が公売に出されていた。森林組合的にどうかは別にして、経営的には極めて合理的であった。

思いつくままに木材価格ピーク時の行動を書いたが、少し視点を変えれば、再びの皆伐時代に参考になることもあるかもしれない。この頃は、8000人の町に100の素材生産者が存在していた。この中には儲かりそうな時だけ素材生産する者も多数いた。思い出に残る一言は、山は現金に比べて処分するのに時間がかかる。親戚の集まる時間が重要だと。だから山に投資した方が良いと…。

平成 29 年 1 月分の販売実績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	9,876	100.5	145.8	9,273	83.7	174.7	19,148	91.6	158.5
カラマツ	2,449	76.1	98.9	115	22.6	6.8	2,565	68.8	61.4
アカマツ	3,123	101.9	120.6	304	437.7	137.3	3,427	109.3	121.9
その他針葉樹	0	*	*	0	*	*	0	*	*
広葉樹	0	*	*	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
合計	15,448	95.9	130.5	9,692	82.5	133.8	25,140	90.2	131.8

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	4,029	79.2	315.1
カラマツ	702	78.6	139.5
アカマツ	2,030	107.9	148.2
合計	6,760	86.0	214.5

樹種	今年度累計			
	合板用 (m³)	その他 製材用等 (m³)	計 (m³)	バイオマス (t)
スギ	85,580	70,297	155,878	46,599
カラマツ	24,092	8,255	32,347	14,319
アカマツ	23,820	1,741	25,562	14,080
その他針葉樹	0	1,178	1,178	0
広葉樹	0	1,389	1,389	0
合計	133,492	82,862	216,355	74,998
目標達成率 (%)	74.2	82.9	77.3	83.3
計画量	180,000	100,000	280,000	90,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成 29 年 1 月の需給動向】

●スギ製材用原木の引き合いが強まっている。3 m材、3.65 m材が特に不足傾向にある。

また西日本も雪の影響によりスギ原木が不足。よって東北にも一部スギの引き合いがある。

●カラマツは昨年の台風の影響で出材が落ち込んだことから、引き合いが強まった。

耳からウロコ

芝と薪は草冠で木ではないか？

童話「桃太郎」では、おじいさんは山へ芝刈りにとある。芝は草冠で、今のおじいさんと一緒でゴルフに行くのか？本当は柴である。柴とは、細い枝、小さい雑木であって、当然木への漢字となる。柴犬という日本の犬は、何故柴なのかと言え、毛が枯れた柴に似ているとか、柴をかき分けて獲物をとるためと言われている。

でも、薪も草冠である。薪は草ではなく、木でしようとなる。漢字を良く見ると、草冠の下には木がある。「新」とは、立っている木を刃物で伐って持ってきたものという意味で、そう言えばそうとわかる。でも、今「新」と言えば「新しい」という漢字である。「新」は、タキギのことであったが、木を伐つた切り口が鮮やかなところから「新鮮」↓「新しい」に転じたと言われている。

じゃあ、何故草冠なのかと言え、「新しい」の方が主流となり草冠をつけたと言われている。まあ、両方ともに、矢張り木材だったのである。安心。木への漢字では、樹木の種類(杉、松、柏、柳...)と木を使う品物(板、柱、梁、桶、枕...)が主体である。そこで、変だなと思う代表的な漢字は、本である。木の下部をカットする線を入れると本である。木の根元の部分で、

木の元という意味である。そのため、本来は根本という意味で元々大事な真実ということになる。本質、本来等と使われる意味である。本 (book) とは本当のことを知るのに重要な印刷物であるが、本 (book) の方が馴染みが大きくなっている。

もう一つ村がある。木へんに寸である。寸とは人間の脈を測る事を示すとされていて、人の意味となっている。つまり、木材と人が集まる所を村の成り立ちとしている。やはり、人だけでは、村は成立しないのである。木は衣食住の基本で、木が無いと村にはならない。木の繊維から衣をつくり、食をつくる燃料は木、住居は木である。ちよつとこじつけたか？

このように、木への漢字でも「えつ、木と関係あるの？」と疑問を持ったら調べてみると耳からウロコである。芝と薪の草冠が本当は、柴と新だったということ、改めて、燃料としての木材の価値を見直す契機となれば幸なことである。

追伸 家は木造住宅が基本なので、主要部材は木へんである柱、梁、床、屋根、束、机、椅子、棚等となる。でも主要部分である土台は土、壁も土である。従来の湿式工法では、竹小舞に土を塗ったのである。この竹小舞の減少が竹林の拡大の主因とされている。やっぱり、家も木と土からである。土木工事も土と木からである。